

## 開館時間と休館日のお知らせ

開館時間	Hours
★ 月～金曜日	8:45～22:00
★ 土曜日	8:45～20:00

- 1階総合レファレンスカウンター  
月曜～金曜 9:00～17:00  
【総合的な質問、哲学・歴史などの質問受付】
- 2階レファレンスカウンター  
月曜～金曜 12:30～17:00  
【法律・経済などの質問受付】
- 3階レファレンスカウンター  
月曜～金曜 15:30～17:00  
【芸術・言語・語学・文学の質問受付】

## 休館日

- ★日曜日(4/1(日))は開館)
- ★祝日(4/30(月))「昭和の日振替休日」は通常開館)
- ★5/2(水)(4/30(月))の振替日として休館)

## 図書館カレンダー

4月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

無印	8:45～22:00	△印	8:45～20:00
×印	休館	▽印	10:00～20:00

★休日開館を実施します★  
入学式が行われる4/1(日)は休日開館(10:00～20:00)  
レファレンスカウンターはお休み)。

## 利用に関するお知らせ

★春季長期貸出資料の返却日は  
**4月6日(金)**です。  
貸出延長したい場合はOPACのMyLibraryから手  
続きを行って下さい(4/6まで手続き可能)

## 館内の認証プリンタ入替え

図書館内に設置している認証プリンタが全台新しいプリンタ  
に入れ替わり、3/26(月)より稼働を開始しました。プリントア  
ウトの方法が従来と一部異なりますのでご注意下さい。

### <変更点>

#### 【PC側の変更点】

印刷画面で印刷設  
定を行い、「印刷」ボ  
タンをクリックすると、  
確認ウィンドウが表  
示されるようになります。  
「OK」をクリ  
ックしてからプリンタ



上のカードリーダーに学生証をかざして下さい。

#### 【プリンタ操作の変更点】

- ・学生証をかざした後、印刷ジョブの一覧がモニター画面に  
表示されます。ここで、実際に印刷するジョブを確認のうえ、  
画面の指示に従って印刷を行って下さい。
- ・学生証を忘れた場合でも、モニター画面上でログインIDと  
パスワードを入力すれば印刷が可能になりました。

★プリンタ利用ガイドを各プリンタ脇に設置しています。ご利用下さい。

## 獨協大学図書館ニュース 4～5月号は 新年度号4ページ構成

### ◆春学期図書館ガイダンス案内

ガイダンスの内容と日程を一覧できる(2ページ)

### ◆特集コーナー紹介『もっと、新書を読もう』

春の特集コーナーに並び本を紹介(3ページ)

### ◆「使って欲しい図書館4つの活用法」&「守 って欲しい図書館4つのルール」

新入生を対象に、図書館の主な活用法やルールを紹介(4ページ)



## 特集コーナー 「もっと、新書を読もう -薄くても、奥が深い新書374-」

4/2 (月) から6/27 (水) まで開催

20年ほど前まで新書といえば、岩波新書、中公新書、講談社現代新書を指していました。その歴史と内容の充実から、「新書御三家」と呼ばれることもあります。1990年代以降、出版不況が加速する中で、手軽に読める新書の人気が高まり、現在は数多くの出版社が参入して種類や刊行点数が激増しました。しかし、その反面、内容については玉石混交になっているのも事実です。図書館では、良質の新書を推薦する機会として、この特集を企画しました。御三家に加えて、大学生に特に注目してほしい新書としては、ちくま新書、平凡社新書、集英社新書があります。これらの新書は、学術的な観点を重視して編集されたものが多いので、その分野の入門書として活用するのに最適です。

今回は、数年以内に出版された新書を中心に374タイトルを選定しています。374タイトルの内容を簡潔に記したリストは、特集コーナー前で配布します。また、図書館HPにも掲載しますので、学問や教養の道案内として活用してほしいと思います。ここでは、その中から、ほんの僅かですが紹介します。

### ■『理性の限界：不可能性・不確定性・不完全性』

高橋昌一郎著 講談社現代新書 2008.6

116-Ta33r

### ■『知性の限界：不可測性・不確実性・不可知性』

高橋昌一郎著 講談社現代新書 2010.4

116-Ta33c

著者の高橋氏は、国学院大学文学部の教授で哲学と論理学を教えています。『理性の限界』では、「私たち人間は、あらゆる問題を理性的に解決できる日が来るのか?」という問いかけから出発し、選択の限界、科学の限界、知識の限界について議論します。『知性の限界』では、その続編として、言語の限界、予測の限界、思考の限界について議論し、哲学から経済学、そして宇宙論まで、知の限界と可能性をめぐる論理を展開します。書名に難しいタイトルが付いているので、手に取るのを敬遠してしまうかもしれません。しかし、心配は無用です。会社員、大学生、哲学史家、国際政治学者、科学主義者、論理学者など、架空の多彩な人物によるシンポジウム形式で議論が進行していくので、実に面白く読むことができます。論理学や哲学の入門書としても、思考方法を鍛えるためにも、最適な新書です。

### ■『政府は必ず嘘をつく：アメリカの「失われた10年」が私たちに警告すること』

堤未果著 角川SSC新書 2012.2

304-Ts941s

『ルポ貧困大国アメリカ』岩波新書(S-302.53-Ts94r)で2008年度の日本エッセイスト・クラブ賞と、新書大賞2009を受賞した著者による最新作です。アメリカでは9・11以降、大企業と政治が癒着する〈コーポラティズム〉が蔓延し、大幅な規制緩和とあらゆる分野の市場化を実施した結果、10年間で貧困層が3倍に拡大しました。また、アメリカ政府は、〈対テロ戦争〉に関する国民の疑問を抑え込むため、国民の監視体制を強化する法律(愛国者法)を成立させて、電話盗聴やネット検閲を可能にし、誰でも自由に逮捕できるようにしてしまいました。堤氏は「情報が操作され、市場化の名の下に国民が虐げられているアメリカの惨状を見るにつれ、このままでは日本が二の舞になる」と警告を発しています。3・11後の原発事故発生時に、日本政府が情報を隠蔽し操作していた事実を私たちは知ってしまいました。だからこそ、「大切なのはひとつの情報を鵜呑みにせず、多角的に集めて比較し、過去を紐解き、自分自身で結論を出すことだ」という著者の言葉がより一層、重く響きます。昨年から論争が続いているTPP加盟に関しても、本書を読めば、同一線上にある問題であることが理解できると思います。

### ■『エネルギー進化論:「第4の革命」が日本を変える』

飯田哲也著 ちくま新書 2011.12

081-C44-934s

自然エネルギー政策の第一人者による、自然エネルギー論の概説書です。現在の世界における趨勢、歴史、地域での取り組み、日本で普及しなかった理由などが、明瞭に解説されています。日本では、自然エネルギーを本格的に普及させる政治や政策がなかったため、国民の認識や理解は不足していると思いますが、本書を読んでから議論をするべきでしょう。例えば、「自然エネルギーの世界全体の設置総量をみると、2010年末の実績では、太陽光発電は4300万kW、風力発電は2億kW、バイオマスが1億4000万kW、合計で3億8300万kWに到達し、原子力発電所の設置総量である3億7000万kWを超えました」と、具体的な事実を知ったとき、どう感じるでしょうか。飯田氏は、京都大学で原子核工学を専攻し、約10年間、原子力の世界で仕事に携わった経験を持ちます。いわゆる「原子カムラ」の出身者ですが、「持続可能性」(sustainability)という考え方から原子力に見切りをつけ、進路を変更した経緯があります。飯田氏の新書には他に、社会学者の宮台真司氏との対談『原発社会からの離脱』講談社現代新書(543.49-Mi71g)があり、ここでは「原子カムラ」時代の体験や共同体自治の必要性が語られています。

### ■『原発を終わらせる』

石橋克彦編 岩波新書 2011.7

S-543.49-G34

原子力発電の問題は、議論すべき点が多岐にわたるため、全体像を理解するのが困難です。本書は、その複雑な原発問題を、①「福島第一原発事故で何が起きたのか」②「科学・技術的側面の問題」③「社会的側面の問題」④「エネルギーシフトの戦略」の4項目に分け、各項目を各分野の第一線の研究者14名が解説しています。そのため、原発問題を扱った新書の中でも特に優れた内容になっています。編者の石橋先生は神戸大学で地震テクトニクスを研究する地震学者で、10年以上前から地震や津波による災害と原発事故の災害が複合して発生することに警鐘を鳴らし、「原発震災」という言葉をつくって指摘をしてきました。本書では再稼働に触れ「そもそも、たかが発電施設にすぎないのに、非常な危険を内包する原発を大津波のおそれがある場所で運転しようとするのは、正気の沙汰ではない」「津波対策さえすればよいという考え方自体に啞然とする」と、思考停止した政府の方針に怒りを表明しています。①の項目で、原子炉設計の技術者だった田中三彦氏が、地震発生半時間以内(津波襲来前)に冷却材喪失事故が発生していた事実を指摘しており、津波対策が抜本的な解決にならないことが明らかにされています。

# 使って欲しい図書館4つの活用法

## OPACで本を探そう

図書館の蔵書の約半分は、人が入れない自動書庫に入っていて、書棚から見つけることはできない。図書館の本を探すには、PCの蔵書検索（OPAC）を利用しよう。



本のタイトルや著者、テーマ別など様々な方法で検索できる。検索用PCは各フロアにあり、自宅など学外からももちろん検索可能。

## MyLibrary を利用しよう

図書館のホームページから、自分専用のMyLibraryへアクセスして図書館を有効活用しよう。自動書庫の本を請求するとき、貸出中の本を予約するときにはMyLibraryを使う。借りている資料のタイトルや返却期限の確認をしたり、貸出延長手続きもできる。検索した資料の情報をメモして保存できるMyブックシェルフなども活用しよう。

## フロアのレイアウトを覚えよう

3フロア構成の利用者ゾーンは、各フロアほぼ共通のレイアウト。洋書と和書の位置、事典類や雑誌の場所、用途別の閲覧エリアも各階同じ位置にある。配架資料はフロアごとにテーマが決まっています、各フロアのレファレンスカウンターでは、テーマごとの相談ができる(1ページ参照)。レイアウトを覚えるために、図書館スタンプラリーに挑戦してみよう。オリジナルグッズももらえる(4/2~5/26・2ページ参照)。

## データベースを活用しよう

図書館の資料は書棚や書庫にあるものばかりではない。獨協大学図書館では用途に合った様々なデータベースを提供している。新聞の過去の記事を読む、雑誌記事を検索し、本文をPDFファイルで読む、企業情報を調べる、判例を参照するなど、電子図書館機能をフル活用して、レポート作成や学習に役立てよう。データベースを使いこなすため、春のデータベースガイダンス(2ページ)に参加しよう。

# 守って欲しい図書館4つのルール

## 返却期限を守る

- ◆学部学生の貸出期間は**2週間**(20冊)です。
- ◆延滞すると、メール・電話・ハガキなどで督促が来ます。
- ◆延滞中は延長や新たな貸出ができません。
- ◆返却を待っている利用者があることを忘れずに。

## 図書館資料は大切に

- ◆本に書き込みをしないでください。
- ◆切り取ったり、破ったりしないでください。
- ◆お菓子のカスなどを落とさないでください。
- ◆濡らさないでください。
- ◆汚損や破損したときは、すぐにカウンターへご連絡ください\*。



\*濡れた場合、濡れた全てのページに新聞紙などを挟んで重しをすると、被害が軽減されます。

## コピーのルール

- ◆図書館内のコピー機では、図書館資料以外のコピーはできません。
- ◆ノート等の持込資料のコピーは館外のコピー機をご利用ください。
- ◆図書館資料をコピーする際は、文献複写申込書に記入の上、ご利用ください。
- ◆著作権法を守ってご利用ください。

## 館内での禁止事項

- ◆食事は軽食・お菓子も含め全エリアで禁止
- ◆缶飲料・紙パックなど、倒したときにこぼれる可能性のある飲み物の持込みは禁止
- ◆携帯電話の通話は所定の場所(階段室)を除き禁止
- ◆大きな声で話したり、大きな音をたてるなど、他の利用者の迷惑になる行為は禁止